

令和6年度第1回 国土交通省大阪航空局 総合評価等に関する委員会
審議概要

開催日及び場所	令和6年5月20日(月) (大阪航空局 会議室B・C)
委員	委員長 古阪 秀三 (立命館大学客員教授) 委員 鎌田 敏郎 (大阪大学大学院工学研究科教授) 委員 倉本 宜史 (京都産業大学経済学部教授)
内容	審議事項 1) 「神戸航空交通管制部空気調和設備工事」 ・技術提案の個別評価項目及び評価結果の妥当性 2) 「那覇空港等津波浸水早期復旧対策検討業務」 ・技術提案の個別評価項目及び評価結果の妥当性
委員からの 意見・質問	意見・質問
	別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具 申内容	1) から2) について審議内容を了承

【議事要旨】委員からの主な意見・質問

審議事項 1)「神戸航空交通管制部空気調和設備工事」

(質問) 点数が低いところから

そもそも技術提案のテーマが難しかったのではないか。

1テーマについて5つの提案という数が多かったのではないか。

新たな提案がしにくい工事ではなかったか。

工事業者の理解が少なかったのではないか。

(回答) 施設の運用・業務を継続しながらの空調更新工事で一般的に課題となることへの対応策をテーマとしており、特に難しいものではないと考えている。

提案数については総合評価落札方式にかかる大阪航空局の実施方針に1つのテーマに対し5つまで提案できることが規定されている。また、テーマ数については同実施方針で1～2テーマを設定することとなっており、今回は2テーマとしたが、仮に2つの内容を組み合わせた1つのテーマを設定していた場合、点数が上がった可能性もあると思われるため、今後検討したい。

騒音等に関する現場管理のテーマについては、空調工事に限らず建築工事などの他業種でも求められる内容であることから、様々な新技術を活用した提案が可能であり、室温管理を考慮した空調設備更新手法のテーマについては、空調設備を構成する機器の種類ごとの提案を想定していたところ、実際に機器ごとの提案もあったため、複数の提案をすることへのハードルは高くはなかったと思われる。

今回の点数は低いように感じられるが、総合評価落札方式は技術点を相対比較するために優れた提案に加算する方式であり、今回加算された提案は少なかったものの、加算されなかった提案も「可」の評価で、「不採用」は無かったため、点数が低いことに問題はないと考えている。

審議事項 2)「那覇空港等津波浸水早期復旧対策検討業務」

(質問) 独創性の評価について、過去の実績について複数項目記載されており、評価して良いのではないか。

(回答) 評価について内容は的確性で評価している。独創性については全く新しい提案に該当するか判断が難しい。我々が求めていることに対し、合致性、実現性を考慮して評価した。

以上